東研資料第34号
昭和34年7月

米國内における米國商品と輸入商品との競合

―― 米国商品の高価格は自分を市場から
締め出しているのだらうか ――

国立国会
34.8.24
図書館

東京商工会議所

はしがき

米国の昨年1年間の金流出は23億ドルに及び、その後もこの傾向は止まりそうにもない。これが今后も継続するのか、あるいは一時的な現象に止まるのかは予断を許さないが、昨年は輸入の減少以上に大巾に輸出が減退したことはたしかであり、業種によってはその市場の相当部分を輸入品によって食われつつある。これが単なる外国の低賃金だけではなく、外国産業の生産性の向上によるところも多いということが米国内の競合業界の悩みであり、米国内でも次第に論議が巻き起ってきている。本年4月27日号のU・S・News and World Report誌は“Is U・S・Pricjng itself out of Markets ? ——The facts about industries hurt by goods brom abroad ——”と題してこの間の事情を伝えている。

叙述は一般的でさほど専門的ではないが、広汎に各業界の問題点を伝えているので、訳出して大方の御参考に供する次第である。

昭和34年7月

東京商工会議所調査部

米国内における米国商品と輸入商品との競合

外国商品が米国に流入し、労働者の職を奪いつつあることについての幾多の話が語られている。これらの話の実態は何であり、どこの産業が被害をうけ、どうして外国製品が米国産業より安値で売れるのだろうか。

詳しく調べると、外国との競争は増大しつつあるが、まだ全国的な問題ではないということ――影響をうけている産業にとつては重大問題であるが、――に気づくであろう。

低賃金は実態の一面であり、他の一面は外国産業の生産性が上昇していることである。その結果、米国の諸市場で米国製品より安値に売れる能力をもつことになる。

この結果、或産業や社会の失業者の所得にも影響することになる。

多くの産業や多くの地区において外国から入つてくる商品は重要な意味をもつている。輸入商品は米国が失つた市場に入り込み、失業者の貧弱なポケツトにも入り込んでいる。

一般に影響をうけている会社や地域は小さく、産業界全体としては重大化しているようには思えない。がしかし、輸入の影響をうけている個々の企業や地域にとつては全く現実的なものである。

起りつつある事態を調べるためにU・S・News and World Report誌は失われた市場や米国の産業界が太刀打できない競争相手についての多くの資料を吟味してみた。調べれば調べるほど米国では賃金やその他の費用が上昇し、外国では新設備が採用されて、生産性が上昇していることが米国産業を悩ます原因となつていることが判明した。

世界諸国が産業を近代化し、熟練労働、低賃金労働を発展させればさせるほど、米国の産業界にとつてこの問題が次第に大きくなつてくる。次に示す実例は現在生じつつある事態の概観を示すものである。

◇ 釘

イリノイ州ペオリア市(peoria)の一会社は貨切貨車扱い100ポンド9・80ドルで売る8ペニー釘を製造するのに時間当り2・9ドル強の賃金コストがかゝつている。ところがドイツの工場から輸入される同一の釘はニューオルリアンズで税込100ポンド7・90ドルで売出され、ペオリアには8・35ドルで運ばれ得る。日本製の釘の賃金コストは時間当り40セントで、ニューヨークで7・45ドルで売出され、ペオリアには8・52ドルで運ばれ得る。

◇ 有刺鉄線

有刺鉄線は米国の発明品であり、大鉄鋼会社や全国の多数の小会社によつて生産されてきた。しかし昨年は米国で売られた有利鉄線の半分以上が外国の鉄鋼を使う外国労働者によつて作られた。輸入は輸出の５０倍に上つた。

その理由は次のようである。たとえばオハイオ州デイトン市（Daiton）の問屋はドイツで製造された有利鉄線１トンは米国のクリーブランド近郊（Cleveland）で製造されたものより40ドル安く手に入れることができ、米国の賃金はざつと３倍位高い。

同産業では輸出と輸入が均衡すれば、有刺鉄線を生産する６５０人の仕事が生み出されると推定している。有利鉄線には輸入関税は課されていない。

◇　自　転　車

米国の自転車製造業者は外国の競争者に対する地位をいくらか回復した。過去３年間に米国市場に占める比重を６０％から７１・８％まで上昇させた。これは如何にして可能であつたか？或会社の役員は次のように説明している。

「われわれはチエイン、ブレーキ、スポーク、タイヤ、サドルなどを輸入し、それらを米国で作られたフレームやリムと組合せている。われわれ自転車産業では利益が全販売額の平均２％になるように価格を切下げている。米国の賃金コストは時間当り２・３ドルであるのにドイツでは６０～７０セントであり、イギリスでは一寸これより高い。われわれは合理化機械や生産方法の改良によつてはこの差を相殺できない。自転車製造の技術は凡て公開されており、米国にとつて特別の技術はない。

◇　ミ　シ　ン

米国の家庭用ミシンを生産している会社の多くは外国の工場に移つている。米国でミシンをなお生産している主要業者はシンガーのみである。

従来、同業界で第二位にあつたホワイト社（White）は８０年の歴史を閉じて１９５７年末に国内生産を断念した。同社の機械は現在日本で作られている。米国の工場で作られているミシンでは低価格の輸入品と競争できない。現在同社のミシン１台の価格は２２５ドルであるが、米国で作るとなると３２５ドルの価格になると１役員は述べている。

◇　金属洋食器

約５年前よりステンレス製のナイフ、フオーク、スプーンを作つている会社が輸入―特に日本からの――の手ごわい競争をうけ始めた。米国製品の平均価格は１打当り１・９１ドルで日本製品のそれはダース１・１５ドルであつた。輸入は市場の８％を占めていた。

昨年までに米国の製造業者は賃金および原料コストをカバーするために価格を１ダース２・３２ドルに上げた。日本品の輸入価格は１ダース８４セントに落ちた。昨年米国で売られたステンレス洋食器の３８％が外国の工場で作られた。これは主として日本であり、日本の同産業の賃金コストは米国の工場の時間当り２・１３ドルに比し、約２２セントである。

この５年間に４会社が廃業し、同業界の雇用者は3.１００人から2.４００人えと減少した。コネティカツト州メリデン市（Meriden）のインターナシヨナルシルバー会社(International Silver Company)の役員はステンレス洋食器の生産減少による同企業の休業時間は同地域に年間５００万ドルに相当する購買力の喪失をもたらしていると推定している。メリデン市は労働省により相当な余剰労働地区の１つとして指定されている。

◇　タイプライター

５年前は米国内で売られる７つのポータブルタイプライターのうち１つだけが海外で作られたものであつた。現在は１０のうち３つが海外で作られている。その原因は価格である。著名な米国のメーカーのポータブルタイプの標準型は７９ドルで売られる。西ドイツ製のものは殆んど同一のもので６９ドルである。

米国の一会社は現在、自国用、輸出用ポータブルタイプをヨーロツパの工場で作り、米国で販売している。他の会社も亦ヨーロツパで作られた部品を米国でアツセンブルしている。

計算機や、他の事務機械の輸入も著実に増大している――その多くは米国の会社の海外工場から入つてくるのだが――。或会社は米国とドイツで同一機械を作つているのに、米国の工場では時間当り平均２・２５ドルの賃金を払い、ドイツでは６０セント以下である。一会社の役員は「われわれはどうしても外国の会社と競争するために労賃の安い外国工場を設立しなければならない」と云つている。

◇　漁　　具

漁具製造業は大企業ではない。が、標準型電気連続式で有名なニユーヨークのライオネル（Lionel Corporation）のような会社にとつては被害は甚大である。ライオネル社は主としてエアレツクスデイヴイジヨン系の会社との輸入競争により昨年は４６万９千ドルの損失を蒙つた。

同社々長のローレンスコーエン（Lawrence Cowen）は「今年（１９５９年）これから何とかするつもりだ。が、事態が改善されなければ外国のエアレツクスの道具やダイス、分銅ばり、取付具を船に積込むことになろう。明るい見通しではないが、われわれが事業を継続することを欲す

るならばそうしなければならないであろう」と述べ、コーエン氏は続けて「標準型連続式のための工程のように大いに機械化されている箇所ではライオネルは外国の競争者に負けないが、相当の労働量を要するところでは外国の低賃金の方が大いに利益があるであろう。」と云つている。

◇ 腕 時 計

米国製の著名な時計の１つはマサチユーセツツ州ウオルサム市（Walthum)の大工場で製造されているウオルサムであつた。ところが、現在工場の$\frac{1}{4}$は賃貸され、残る$\frac{3}{4}$は時計ならぬ回転儀、精密機械器具、電気機械を作るウオルサム精密機械会社によつて使用されている。旧会社から分れたウオルサム時計会社がニューヨークで借地を使つて外国から輸入された部品をアツセンブルしている。

米国ではなお、エルジン(Elgin)、ブロバ（Bulova)、ハミルトン（Hamilton）の３社が時計を製造しているが、殆んどが部品を海外から輸入している。ブロバ はスイスに工場をもち、ハミルトンとエルジンもスイスに工場をもつことを計画している。ハミルトンは同社型の時計を作るために日本の企業との提携を認可された。初めは日本で、それから各国に、最後に米国で売出す予定である。米国の５つの腕時計会社の４つ以上の製品が外国で生産されている。

◇ 掛時計置時計

ワシントンの電話帳には米国時計製造業者協会がリストされているが、その番号を呼び出すと、同協会はつぶれかゝつていることを知らせる。掛時計、置時計や廉価な時計を作つている会社は輸入品との競争により、もはや、同業組合を維持して行けなくなつているという。

E・イングラーム会社（E・Ingrahm and Company）は１９５６年には時計製造に1.８００人を使用していたが、現在は 減少して1.２００人になつているとロバート・E・クーパー社長（Robert・E・Cooper)は述べている。イングラーム工場はコネテイカツト州ブリストル市（Bristol）にあり、同地方は相当の余剰労働地域として公式にリストされている。

コネテイカツト州ニユーヘブン市（New Haven）も余剰労働地域であるが、同市にはニユーヘブン時計会社があり、かつての2.０００人の従業員が現在は３２５人に減少している。

同業界の大会社であるジエネラル・タイム社（General Time Corporation）は昨年は大巾な利潤低下を見たが、多くの競争者よりはるかに業績は良かつた。 ジエネラルタイム社は国内向にはイリノイ州の工場で製造しているが、海外販売のためには南米、カナダ、スコツトランドに工場をもつている。

◇ 干し物止め

十年前、干し物止め製造工場は全国で１３工場あつた。現在は６工場である。７工場が閉鎖された。米国製のスプリング干し物止めが、１ケース６・３ドルであるのに比し、３・８５ドル弱といつた輸入品の競争相手ではなかつた。

ウエストヴアージニア州リツチウツド市（Richwood、人口5.３００）に干し物止め工場の大きなものがあつたが、昨年初、閉鎖の際、従業員２００人が失職し、１５０人がまだ失業している。ケイスジヤービス市長（Mayor Keith Jarvis）は売上税の減少は２０％に達したと述べている。

またジヤービス市長は「このことにより当市はかなり活気のある町から沈滞した町に変つた。かつてはさほど多くの人数ではないが、同工場の支払賃金が町の経済にかなりの意味をもつていたのである」と述べている。

◇ 毛 編 手 袋

編手袋製造業は小会社から成る小産業である。１９４７年には毛編手袋を作る工場は４４あつた。全部で5.０００人の従業員を擁し、米国で販売される毛編手袋の９５％以上を生産していた。

現在、米国で販売されている毛編手袋の$\frac{3}{5}$が輸入されており、その殆んどが日本と香港からである。米国業界は１６社に減少、雇用者も2.０００人を下廻つた。同産業の多くはグローバーズヴイル（Gloversville）にあり、同地の従業員は９００人から５００人に減少した。グローバーズヴイルは労働省により相当の余剰労働地域として公式にリストされている。

◇ 合 板

サウスカロライナ州デンマーク市（Denmark）のコースタル製造会社（Coastal Manufacturing Company)は昨年１２月合板製造２０年の歴史を閉じた。工場の１２０人の従業員は職を失い、３０人の労務者は工場に材木を供給する請負業者に備われた。同地区は週１１万５千ドルの購買力を失つた。

同社の社長で３人の株主の１人であるロバートツアイグラー氏（Robert Zeigler）は輸入は事業から凡ゆる利潤を奪い去つた。２年前に閉鎖した方が良かつた。」と述べている。

輸入(主として日本から)が米国市場の１０％から５３％以上に上昇した過去６年間に閉鎖した工場の１つであるサウスカロライナ州の一工場の役員は「１万１千人以上の仕事が失われた。輸入競争者は米国では１平方フィート１７・５セントで売らなければならないのに７セントという価格である」と云つている。

◇　陶器製食器

米国最大の陶器製食器製造業者の１つはウエストヴアージニア州ニューウエル市（New-well）ホーマーローリン陶器会社（Homer Lawglin）である。同社は4.５００人の従業員を擁していたが、現在は1.５００人、５０％の操業率である。しかし、ローリン社は外国製の皿の輸入増加に直面してきた過去5年間に廃業した１０社以上の同業者よりうまくやつてきたのである。これは主として米国メーカーの要する費用の半分の価格の日本の製品の影響によるものである。

同社の総支配人Ｊ・Ｍ・ウエルズ（Ｊ・Ｍ・Wells）は次のように云つている。「過去１５年間に工場の近代化を大いにやつた。われわれは一層近代化、生産性の向上も可能と考える。しかしわれわれの労働コストはなお販売価格の約６５％である。輸入競争に対抗するためには低価格で在庫を動かさなければならなくなろう」と。

◇　カ　メ　ラ

諸君は販売されているカメラのうち、輸入品や外国製の附属品フラッシ装置や露出計をつけたアメリカカメラの益々ふえて行くのを見出すであろう。１９５８年の政府統計もこの傾向を反映している。カメラや同部品の輸入は総額２０７０万ドル以上に上るが、輸出はわづかに５８０万ドルに過ぎない。レンズも輸入が４３０万ドル、輸出が１６０万ドルである。しかし、又、このような事実とは逆に、フイルム、映写機、同装置、その他の製品を含めると輸出は9.０００万ドル、輸入は4.６６０万ドルとなる。

◇　毛　織　物

ヴアージニヤ州シャルロツテヴイル（Charlottes — ville）のシャルロツテヴイル毛織工場では、昨年末以降２００人以上の工員が解雇された。現在、１０数名も残つていない。その会社は外国製の輸入品と競争できる価格では毛織物を生産して行けなくなり、９１年の事業の歴史を閉じたのである。

解雇された工員の平均年令は５０才以上であり、その多くは会社に永年勤めてきたもので、中には2代、３代と勤めてきたものもある。工場を去るに当つて老工員の誰でもが洩らす言葉は別の仕事を見つけるにはあまりにも年をとりすぎているし、社会保障をうけるにはあまりにも若すぎるということである。これら工員の失われた賃金は年６５万ドルである。

第二次大戦以降、シャルロツテヴイルの工員をも含めて織物産業で失職したものは３５万人にも達し、破産した工場は７００以上に上つている。同産業は外国との競争以外にも重要な問題をもつ

ているが、輸入が大きな役割を演じていることは事実である。

１９５８年の前年と比較した毛織物衣服品の統計は米国工場の生産は６％以下、輸入は７％増加した。輸出はどうかというと、「輸出は事実上皆無で世界市場で競争するには高価すぎる。」と或会社の役員は述べている。

◇　綿　織　物

１９５７年日本が自発的に米国への綿織物輸出の全割当を１年分の１億8,８００万平方ヤードから１億2,２００万平方ヤードに引下げたとき、米国綿織物業界は一寸一息ついた。又、米国の輸出も１９５５年の５億７００万平方ヤードから５億4,８００万平方ヤードへと伸びた。

しかし、昨年は２つのことが起り、事態を変化させた。その１つは日本以外の香港、その他の地域から米国への輸出が急激にふえ、輸入は１億4,３００万平方ヤードへと上昇した。

第二は中共がコストを無視したような低価格で５億平方ヤードの綿織物を突然輸出した。米国の輸出は５億１００万平方ヤードに落ちた。

「これは唯米国の輸出に悪影響を与えるばかりでなく、日本をして米国えの輸出を従来より一層増大させる必要を生じさせた。」とアメリカの１役員は述べている。

１９５８年の数字は１９５３年に比し、輸出は１９％、輸入は３３％上昇している。

◇　自動車タイヤ

自動車タイヤの需要は自由世界諸国では米国の約2倍の速さで増大している。伝統的にタイヤ輸出国であつた米国の会社は増大する外国需要の供給に応じているが、このことは米国の工場からの輸出が比例的に上昇していることを意味するものではない。

例えばグツドタイヤゴム会社（Cood Tire and Rubber Company）は工場をもつている２０ケ国のうち、１０ケ国の工場を拡張しており、フランスに７００万ドルの費用で新工場を建てることになつている。他の大会社中の若干も海外活動を始める同様のプランを有している。

米国の自動車タイヤの輸入は主として輸入車の小型用のものである。これら輸入タイヤの相当部分が米国会社の海外工場から入つてくるのである。

◇　自　動　車

４年前には米国では輸入自動車の４倍以上が輸出されていた。現在は輸入が輸出の４倍となつている。

これが雇用にどんな影響を与えるであろうか。

自　動　車　輸　出　入　台　数

（輸入は増加　輸出は減少）

	1953	1954	1955	1956	1957	1958
自動車輸入高	29,505	34,555	57,115	107,675	259,343	431,608
自動車輸出高	186,262	206,544	284,336	197,708	160,632	125,834

たしかな数字を出すことは困難だが、大ざつぱに考えると次の通りである。

１９５５、５９両年の第1.4半期両期ともに自動車産業における乗用車およびトラツクの生産高は従業員１０人当り２６台であつた。このような数字の基礎の上に輸出向乗用車およびトラツクのための雇用は１万７千減少、輸入には５万５千増加したので計、７万２千の仕事が減少したわけである。

自動車産業の全従業員数は４年前より１５万５千減少した。輸出入状況の変化を除けば、雇用者数は８万３千減少したにすぎない。

以上の数字は概算であつて、輸入の小型車が生産のためによりわづかな労働時間しか要しないという事実を考慮に入れていない。しかし、以上の推定は輸入増加と輸出減少が雇用にどんな影響を与えるかを示している。

◇　トランジスター．ラジオ

諸君はラジオ店に行くと著名なアメリカのブランドをつけたトランジスターポーターブルラジオを見出すとともに、その傍に１０～１５ドルは安い輸入品のセツトを見出すであろう。トランジスターポータブルラジオはラジオ全生産の小部分を占めるにすぎないが、諸君の見たまゝが電気機械産業の悩める姿である。

このような日本からの輸入トランジスターラジオセツトが米国市場の半分以上を占めている。電気産業協会は兵器や軍事施設に使用されている米国のトランジスター製造業者への影響を調べている。もしかれらが民間の仕事を失うと生産施設を維持し研究を続けて行けるかどうかが大きな悩みとなつている。

セツトを作つている会社自体にとつては問題はさほど重大ではない。米国の一企業は日本からのトランジスターポーターブルラジオを自分自身の製造の一部として売るべく日本からトランジスターラジオを輸入しようと手配している。他の若干の会社も日本からセツトやパーツを輸入することを考えている。

◇　タービン発電機

米国の２会社より数百万ドルだけ安値をつけた英国の会社から巨大な蒸気タービン発電機を買うというＴＶＡ当局の決定に対して巻き起つた主要な問題は国家的防衛という問題であつた。一方、タービン発電機の製造という仕事が作られれば米国の四市の工員に特別の利益をもたらすことも他の一面である。ウエスティングハウス電気会社（Westenghous Electric Company）やジエネラルエレクトリツク会社（General Electric Company）が発注をうければ、直接的な生産に、２年間、３５０人同計画に関連した間接的な仕事に７００人の雇用が必要と推定されている。同種類の仕事に適するウエスティングハウスの工場はイーストピツツバーグ（East Pittsburgh）とペンシルバニア州のレスター（Lester）にジエネラルエレクトリツク社はニユーヨーク州のシユネクデイ（Schenectady）とマサチユーセツツ州のフイツチバーグ（Fitchburg）にある。

同地方は米国労働者によつて公式に相当の余剰労働地域として区分されている沈滞した地区である。

上記２社は「イギリスのこのような仕事の賃金は米国の約３７％にすぎない。従つて米国はイギリスの申し値に対抗でさない。」といつている。同２社は米国の施設では戦時に修繕したり取換えたりするのが困難となろうと論じている。ＴＶＡ当局はこれに同意せず、かれらの抗議を却下した。

米国産業を悩ましている傾向

（米国の外国製品の購入は販売（輸出）よりも遙かに増えている。）　（単位　億ドル）

	1953	1954	1955	1956	1957	1958
工業製品輸出	74	74	80	93	104	94
工業製品輸入	22	22	26	32	35	39

１７５３～８８年間に輸入は７７％
輸出は２７％　}上昇

前表が示すように工業製品の輸入は外国市場への米国の輸出品に比し、比較的少い。しかし、傾向としては輸入は上昇に向つており、輸出は減少に向つている。

戦后の他の国の産業は近代化され、米国の方法を学んだ。生産コストは米国では上昇しつつあるのに多くの他の国では急激に低下している。米国では少くとも鉄鋼、機械、その他輸入品の増大し

ている製品ではこの関係が認められる。

以上のような競争に立ち向おうとしている米国の製造業者は仕事を続けて行くためには次のような二者択一に迫られている。

「一そうオートメ化して人員を減らすか、或は生産を海外に移すか」